

# ポーランド人日本語学習者の誤用

山陽学園短期大学 山根 智恵

## 1. はじめに

学習者の第2言語習得を研究する手がかりとして、学習者の誤用がある。特に日本語教育の分野では、長友(1993)が指摘するように、英語・中国語など特定の言語を母語とする学習者の誤用分析が行われてきた。

しかし、学習者の母語に関係なく系統的な誤用が見られること、誤用だけでなく正用も調べなければ意味がないこと、コミュニケーション・ルールやストラテジーと関連づけ、広く中間言語という立場で研究していかなければならないことなどから、対照分析を中心とした研究は以前より少なくなっている。

もちろん学習者の母語との関連だけで、誤用のすべてを説明することはできないし、日本語学習者が共通して難しいと感じる文法事項があることも確かである。しかし今までの対照分析は、日本語学習者の多数を占めるアジアの言語や英語との対照分析がほとんどで、それ以外の言語を母語とする学習者の誤用についてはあまり報告されていない。日本語学習者の国籍が多様化する今日、アジアの言語や英語以外の母語を持つ学習者の誤用を、今一度分析する必要があるのではないだろうか。

本論文では、(1)ポーランド人日本語学習者に多く見られる誤用にどんなものがあるか、(2)学習が進むに従って、ポーランド人日本語学習者の誤用の傾向はどう変化するかこの2点に着目し、今まで研究が行われていないポーランド人日本語学習者の誤用について考察する。

## 2. 分析資料

分析に用いた資料は、筆者がヤギェウォ大学言語学部東洋語学研究所日本学科で教えていた1992年から1994年の間に、学生の作文・テストの答案から収集した、262の誤用文である(1年生:55文、2年生:70文、3年生:52文、4年生:63文、5年生:22文)。1文に1つ以上の誤用を含むものもある。ただし、表記の誤用は除いてある。

## 3. 日本学科の日本語関係科目について

日本学科の日本語関係科目で一番時間数が多いのが「日本語演習」である。この時間に、教科書の文法項目の説明、文型練習、自由会話が行われる。時間数は、1年生・2年生が1週間に5コマ(1コマは90分)、3年生・4年生が1週間に4コマ、5年生が前期のみで1週間に2コマである。この「日本語演習」以外に、1年生は1週間に2コマ「日本文法入門」の時間があり、現代文法についての講義を受ける。各学年別の使用テキストと進度は、1992年から1994年にかけては次のとおりであるが、それ以前には『An Introduction to Advanced Spoken Japanese』(アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター)や『日本語表現文型中級I、II』(筑波大学)も使用されていた。

1年生：	『日本語初歩』(国際交流基金)	28課～30課終了
2年生：	『日本語初歩』、『日本語中級』(国際交流基金)	全課終了
3年生：	『日本語中級』(国際交流基金) 『Integrated Spoken Japanese vol.1』 (アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター)	全課終了 3課終了
4年生：	『Integrated Spoken Japanese vol.1、2』	4課～9課終了
5年生：	『Integrated Spoken Japanese vol.2』	10課～全課終了

また1年生から5年生の前期まで、1週間に2コマ漢字の時間がある。3、4年生は翻訳の練習も行う。詳しいカリキュラムに関しては、山根(1993)を参照してもらいたい。

#### 4. 学年別の誤用

誤用を、[1] 文法・表現と [2] 語彙・意味に分けた。そして文法・表現を、(1) 品詞の誤り(例：私の国の食べ物がおいしいです。)、(2) テンス・アスペクトの誤り(例：みなポーランドの文学と音楽を知ります。)、(3) ヴォイスの誤り(例：ヤンさんは車からいろいろおもしろい所を見えました。)、(4) 敬語の誤り(例：お元気でござってください。)、(5) 語順の誤り(例：たくさん店は近くににあります。)に分類し、学年別にその誤用をまとめた。以下にその誤用文を掲げる。

なお、下線部が誤用とみなした箇所である。

##### 4.1 1年生に見られる誤用

###### [1] 文法・表現

###### (1) 品詞

###### {1} 助詞

- ・私の国はおいしいくだものややさいなどがが作っています。
- ・私の国の食物がおいしいです。
- ・山も川も湖がたくさんあります。
- ・私はポーランドを好きです。
- ・ポーランドにやさいやくだものなどを作っています。
- ・ポーランドでたくさんきれいでふるい町があります。
- ・どの建物は郵便局でどの建物は病院ですか。
- ・ポーランドのれきし学おもしろいです。

###### {2} 動詞

- ・つくえの上にえんぴつつです。
- ・わたしたちの社会はおもしろくうつくしい習慣を持ちます。

###### {3} 形容詞

- ・私の国ののはたは、白くて赤いの色で、首都はワルシャワです。

(4) 指示詞

- ・ヤギェウォ大学があります。あそこに外国人は勉強しに来ます。

(2) テンス・アスペクト

- ・みなポーランドの文学と音楽を知ります。

[2] 語彙と意味

- ・その大学でこうえいある人は多いべんきょうをしました。
- ・海はさわくてきれいです。

4.2 2年生に見られる誤用

[1] 文法・表現

(1) 品詞

{1} 助詞

- ・わたしは大学でおかしがが食べました。
- ・1973年に父はこの家を建てることがはじめました。
- ・日本語がむずかしい言葉ですが、いっしょうけんめいに日本語を勉強すれば、上手になると思う。
- ・友達から絵はがきと本をもらったことがあります。その本がかぶきの本です。
- ・私はきのうテレビにに面白い番組を見ました。
- ・毎日そこに散歩をします。
- ・来年に日本へ行こうと思います。
- ・旅行に行けばら京都がいいですよ。
- ・おみやげをもらったらうれしかったです。
- ・すりにさいふをぬすまれててけいかに伝えるつもりです。

{2} 動詞

- ・だれかに案内してくれなければ道がわからなくてこまると思います。

{3} 形容詞

- ・きのうは天気がよいだから、私のにわにはたらきました。

{4} 指示詞

- ・駅の近くには大きいデパートがあります。あそこに買い物をしに行けます。

{5} 接続詞

- ・まるこさんは美人で親切な人です。そうしてヤンさんはまるこさんと歩いて少し話しました。

(2) テンス・アスペクト

- ・私はまだ日本人のたんじょうびに行くことはありません。
- ・わたしは日本へまだ行きませんが、日本のおみやげがあります。

(3) ヴォイス

- ・信号がこわして交通事故があった。

(4) 敬語

- ・お元気でござってください。
- ・お教えになってください。

(5) 語順

- ・ たくさん店は近くにあります。
- ・ 私の家のそばに2けんデパートと病院がありますから静かではありません。

[2] 語彙と意味

- ・ 私は写真を写すことに趣味があります。
- ・ ラオさん、お元気ですか。この時、美しい天気ですから、毎日さんぽをします。
- ・ 昨日大変な交通事故を見ました。

4.3 3年生に見られる誤用

[1] 文法・表現

(1) 品詞

{1} 助詞

- ・ 7時ごろ友達のところへ行った。そこに夕食を食ってテレビを見た。
- ・ 5年生になるときまでに両親と一緒に祖母の家に住んでいた。
- ・ 先月に買った新しいカメラでたくさん写真を撮った。
- ・ そこでヤンさんの名刺があります。
- ・ 加藤一家全員に会う前で加藤さんの奥さんと二人でヤンさんは買い物をしに行った。
- ・ 写真はともすばらしいのは、先月買ったカメラだからす。
- ・ レントゲンをとって足にギブスが必要でした。

{2} 動詞

- ・ ヤンさんはすずきさんの所へ来て引っ越しそばをくれた。

{3} 指示詞

- ・ 電話ボックスの前で女の人とあった。あの女の人も電話ボックスに入りたがっていた。

(2) テンス・アスペクト

- ・ 空港のロビーを歩くとき偶然にヤンさんはある女の人の荷物をおした。
- ・ 前にヤンさんはその枝豆を食べることは全然なかった。

(3) ヴォイス

- ・ ヤンさんは車からいろいろなおもしろい所を見えました。

[2] 語彙と意味

- ・ 寮の部屋を出かけようとすると水道を直しに人が来た。
- ・ モーターバイクに打たれてしまいました。

4.4 4年生に見られる誤用

[1] 文法・語彙

(1) 品詞

{1} 助詞

- ・ 一度このルールをよく分かると、あとは難しいことはないんですね。
- ・ 1943年ブシニツアの壁の前に30人が殺されました。

- ・4年間に日本語を習ったが、未だに上手に話せません。
- ・お茶会は日曜日にですからちょっと練習しなければなりませんでした。
- ・今度あの奴は来たら、殴りつけてやるんだよ。
- ・楽しかったのですが、今手がちょっと痛い。ボールは重かったから。
- ・切符は予約しておいて今買いに行きます。
- ・午後西村さんの家にお茶の練習しに行きました。

{2} 形容詞

- ・ですからオイツフ国立公園は、ポーランドで一番小さいなのに、特殊な地位を占めると言われています。

{3} 指示詞

- ・シェロカ通りは、ユダヤ人の地区の中心でした。あそこは市場がありました。

{4} 接続詞

- ・a: 講義はオモシロかったね。
- ・b: ところが長すぎたよ。

(2) テンス・アスペクト

- ・a: 田中さんの息子は、店に押し入って、警官につかまれて、投獄されてしまったそうだ。
- ・b: 前から悪い仲間ができるとは思っていたんだが、こんな始末になるとは思わなかったよ。
- ・入院したばかりでまだ手術をしません。

[2] 語彙と意味

- ・私は初めてボーリングをして、下手だったけどちょっと練習をして、ゆっくりよくなっていった。

4.5 5年生に見られる誤用

[1] 文法・表現

(1) 品詞

{1} 助詞

- ・中庭からバルコニー・玄関口、皆イタリア式の構成分子を見えます。
- ・この聖餐台の前に王様の戴冠式が行われました。
- ・クラブに住んでいたユダヤ人がみんなカジミエシに移転してここで集中しました。
- ・毎日昼から夜まで仕事はいっぱいあったので手紙を書くのは遅くなりました。
- ・けれども平行しているカノニチャ通りを散歩して、おもしろい所を見物する機会があります。

{2} 動詞

- ・重要な展示品の中には1510年頃作った地球儀です。

{3} 指示詞

- ・5年になる時まで両親と一緒に祖母の家に住んでいた。あれは静かな地域にある大きいアパートだった。

(2) テンス・アスペクト

- ・昔ここを小さい川が流れていましたから、バベル城へ行った時に小さい橋を渡らなければなりませんでした。

[2] 語彙と意味

- ・カジミエシという小さな町を設立しました。

5. まとめ

学年別に分けて誤用を見てきたが、どの学年にも現れ、誤用の頻度が高かったものに、助詞の「に」と「で」、「は」と「が」の混同、不適切な語彙の使用があった。テンス・アスペクト、接続助詞「て」の誤用も多く見られた。

学年と誤用の変化に関しては、(1)「に」と「で」の混同のように全学年を通じて見られるもの、(2)「が」と「も」の混同のように、学年が上になるに従って消えて行くもの、(3)「と」、「ば」、「たら」、「なら」の混同のように、学年が上になるに従って新しい文法事項を学習したために新たに現れるもの、(4)「が」と「は」の単文での誤用から複文での誤用のように、学年が上になるに従って誤用の現れる文が変わるものの4種類に分かれるという傾向が見られた。

またこれらの誤用における学習者の母語であるポーランド語との関わりについては、次の四つにまとめることができた。

- (1) ポーランド語にあるので日本語でも言ってしまうもの

例：「に」の付加

- ・来年に日本へ行こうと思います。

(W przyszłym roku zamierzam jechać do Japonii.)

- (2) ポーランド語に対応する日本語が二つ以上あるので、混同して誤ってしまうもの

例：「に」と「で」、「です」と「あります」、そ系指示詞とあ系指示詞の混同

- ・ポーランドにやさいやくだものなどを作っています。

(W Polsce uprawia się warzywa i owoce.)

- ・ポーランドできれいでふるい町がたくさんあります。

(W Polsce jest dużo pięknych starych miast.)

- ・つくえのうえにえんぴつです。

(Na stole jest ołówek.)

- ・クラクフにヤギェウオ大学があります。あそこに外国人は勉強しに来ます。

(W Krakowie jest Uniwersytet Jagielloński. Przyjeżdżają tu na studia cudzoziemcy.)

- (3) ポーランド語をそのまま置き換えて使用したために日本語として不適切なもの

例：不適切な語彙の使用

- ・カジミエシという小さな町を設立しました。

(Założył małe miasto "Kazimierz".)

- (4) ポーランド語にないので使用を誤ったもの

例：「は」と「が」

- ・私の国の食物がおいしいです。

(Kuchnia mojego kraju jest smaczna.)

・写真はとてすばらしいのは、先月買ったカメラだからです。

(Wspaniałe zdjęcia zawdzięczam kupionej w zeszłym miesiącu kamerze.)

## 6. 今後の課題

今後の課題として次の2点をあげたい。まず、誤用の種類とその傾向についてさらに詳しく分析する必要がある。たとえばポーランド人日本語学習者に多く見られる「に」と「で」の混同であるが、「に」や「で」がどのような使い方をする時に誤用が多く見られるのかについて考えてみたい。

2点目として、誤用分析にとどまらず、ポーランド人日本語学習者の中間言語について広く研究していくことがあげられる。特に日本人の幼児の言語習得と比較してどのような違いがあるかについて分析してみたい。

ポーランドは東欧の中では、日本語学習者の年齢が多岐に渡り、また最近学習者の数も増加している。ポーランド人の誤用についてさらに詳しく研究することは大切なことだと思われる。

## 参考文献

- エルドアン真理子・シュレン洋子(1994)「トルコ人学習者によくみられる誤用例ー過去四年間の試験の集計から」『第7回日本語教育連絡会議報告発表論文集』第7回日本語教育連絡会議事務局
- 金柿伶以子(1987)「日本語教育における誤用の調査研究」『宇都宮大学教養部研究報告』20号 第1部
- 佐治圭三(1992)『外国人が間違えやすい日本語の表現の研究』ひつじ書房
- 佐藤正子(1887)「アメリカ人の日本語誤用例の問題点ー中級段階の場合ー」『早稲田大学語学教育研究所紀要』34号
- 長友和彦(1993)「日本語の中間言語研究ー概観ー」『日本語教育』81号
- 日本語教育学会編(1987)『日本語教育事典縮刷版』大修館
- 山根智恵(1993)「ポーランドヤギェウォ大学の日本語教育」『第6回日本語教育連絡会議総合報告書』第6回日本語教育連絡会議事務局